

たぐみ

T A K U M I

No.014

平成15年6月●初夏号

信州名匠会

(題字：故 池田三四郎 前名誉会長)

武家、商家、農家の伝統的木造建築の美と技に感嘆

平成14年度研修旅行 「福島県会津若松の建築」

信州名匠会の平成14年度研修旅行は、11月9・10日、23名の参加により行われた。今回は会津若松技術支援センターをはじめ、会津藩学校・日新館、会津さざえ堂、会津若松武家屋敷、会津民俗館などを見学。江戸・明治・大正から昭和初期にかけて匠たちが生んだ、武家、商家、農家の伝統的木造建築の美と技に感銘を受けた2日間であった。



「会津さざえ堂」をバックに。 国重要文化財。寛政8（1796）年に建立された、高さ16.5メートル、六角三層のお堂。独特な2重らせんのスロープに沿って西国三十三観音像が安置され、参拝者はこのお堂にお参りするだけで三十三観音参りができるという大変合理的なお堂。上りと下りが全く別の通路になっている一方通行の構造により、たくさんの参拝者がすれ違うことなく安全にお参りができる。世界にも珍しい建築様式を採用した特異な存在。

重厚な風格漂う蔵座敷

蔵のまちとして有名な福島県喜多方市の「甲斐本家蔵座敷」は、大正時代に4代目当主の甲斐吉五郎が建設したもの。新潟から棟梁を招き、7年をかけて建設したという建物は現在「国登録有形文化財」に指定されており、重厚な豪華さにあふれている。

座敷は上段、下段の間を合わせて51畳。東京、深川の木場から取り寄せた節なしの総ヒノキ造りで、欄間（らんま）は1枚のヒノキ板を数ミリ幅の細い棧（さん）にくり抜いたオサ欄間になっている。上段の間の床柱は鉄刀木（タガヤサン）と四方柱のヒノキ、書院は黒檀、下段の間の床柱には縞黒檀を使用している。

工事の着工は大正6年。7年がかりで建設し、総工費は約18億円という。重要な客をもてなすために建築された

というこの座敷は、そのあまりの豪華さゆえか、使われることがほとんどなかったといい、現在では一般に公開されている。

甲斐家では初代の甲斐吉五郎が酒造りを始め、3代目が麹製造や製糸工場で発展した。現代の当主は7代目で、醤油、味噌製造を営みながら酒類の小売店としての商売も行っている。



喜多方「甲斐本家蔵座敷」 壁には金粉、柱には節なしの檜や黒檀などの銘木を取り寄せ、7年の歳月を費やして大正13（1924）年に完成させた51畳敷の蔵座敷。昭和の初めには、賊軍とされた松平家と皇室の橋渡しをされた秩父宮妃殿下がお茶会に使用された。

研修旅行スナツプ

喜多方市にはほかにも、代々続く商家が多く残り、重厚な蔵づくりの屋敷が点在する。現在まで保存されている蔵の多くはしっくい白壁だが、甲斐家の蔵座敷外壁は黒しっくい仕上げ。まちの中にはほかにも、洋館の雰囲気を取り入れたレンガ造りの蔵などが残っている。



鶴ヶ城にてガイドの説明を受ける参加者



飯盛山で自刃した
白虎隊士の墓



喜多方の町並み



天鏡閣（重文）明治時代の皇室の別邸

研修旅行日程

11月9日（土）

長野市－会津若松技術支援センター－市内にて昼食－会津藩学校・日新館－旧滝沢御本陣－さざえ堂－会津若松武家屋敷－東山温泉（泊）

11月10日（日）

東山温泉－鶴ヶ城・茶屋隣閣－猪苗代－天鏡閣－喜多方にて昼食－甲斐本家蔵座敷－喜多方蔵の里散策－長野市

平成14年度研修旅行「福島県会津若松の建築」

参加者名簿（23名。氏名／所属。敬称略）

伊藤章・(有)アキプランニング、上別府志郎・石材彫刻家、小林充・(株)綿内瓦工業、五明良平・(株)五明、坂田守夫・坂田工業(株)、佐藤満博・(株)二見屋、鈴木隆・ルームデザインハウス、高木茂実・松田産業(株)、竹内公夫・(株)ダスキーターミニックスビホーム、藤澤浩志・(株)シンテック、堀誠・堀幸一・堀建築設計事務所、宮下恒夫・サンコー特機(株)、山崎邦男・山崎工務店、山崎慎一郎・(有)山崎屋木工製作所、山本耕平・長野サウナ販売(株)、吉田雅彦・(有)スタジオスペースツー、和田邦昭・(紹介) (株)鎌倉木材店

【事務局】西澤嘉雄・市村友慎・古川稚佳子・(株)宮本設計、岸本貴志・(株)本久、堀内久美子・(株)新建新聞社

会員にきく
「たぐみの仕事」Vol.7

板金技術を後世に 物づくりは人づくり

株式会社二見屋 代表取締役 みずさわじんすけ 水沢仁亮さん（長野市稲里町）

profile●昭和16（1941）年1月15日生まれ、62歳。昭和34年入社。61年、社長に就任。現・長野県板金工業組合専務理事、前・長野市板金事業組合理事長など多くの役職を務める。

二見屋の5代目社長、水沢仁亮さんは伝統的な板金技術の継承に力を注ぐ。

二見屋は江戸末期ごろ、金物の飾り職として創業。以来、社寺建築における銅板屋根の製作・施工など、伝統的な技術を今日まで引き継いできた。銅板をたたいて伸ばし、曲げて折る。加工から現場での取り付けまで、一人（ひとつのチーム）が一貫して担う。分業による効率化には向かない仕事なのだ。

30人程の社員のうち、職人は20人。「ものづくりは、人づくり。いい人材がいないと、いいものはつくれない」。水沢流の理念が、ここに現れている。

20代～30代の若手職人も多い。「バブル崩壊後、入社を希望する若者が増えている」。水沢社長によると、彼らの多くは、ものを作ることに喜びを求めている。「お金がすべてだったころは職人が育たなかった。最近は価値観が戻り始めている気がする。悲観はしていない。手に職をつけようと、やる気があるから覚えも早い」と、若手への期待は大きい。

一人前に社寺の銅板が葺けるようになるには10年ほどの経験がなくては難しい。自分の味を出して「その人なりのうまみが出てくる」には、さらなる年月が必要だ。

材料は生きている。季節により、天候や時間帯により、気温が変動するから伸びも縮みする。土地の気候に左右されるし、同じ建物でも方角や日光の当たり具合など自然環境を見極めて工法や形を変える。性能を満たした上で、求められるのは美しさだ。

「屋根は完成したら表から見える。長い年月、評価の目にさらされる。厳しい、だから喜びもある。若い職人には『芸術家になるのと同じだ』と教え込んでいる。美しさや周辺の景観との調和も考えないといけない」。社長の強い口調には、職人を育てる親方の姿を感じ取れる。

社員だけではなく、同業から、後継者の面倒を見てくれと頼まれることもあるようだ。教え子が立派な親方になった今も、水沢社長を囲む会を作って集まり、時に仕事を支えあっている。

「弟子はいつしか親方になる。技術が継承される。大切なのは心・技・体。後世に残そうという心、引き継がれる技、そして、継承するための健康な体が大事だ」。



水沢仁亮さん



若手の銅板加工を見守る水沢社長。「加工した部品は、自分で現場に運んで施工する。そうしないと、全体がつかめない」。

従来は銅製の釜なども手がけ、父は戦後、銅製のボイラーを作り、市内の学校に納入していた。こうした開発志向は今も生きている。昭和50年代からは、日本古来の木組技術「枅組（ますぐみ）」を、ステンレスで木造そっくりに造り出すオリジナル商品を開発。伝統文化と先端技術の融合で、新たな文化を築き上げてきた。インターネットによる広報や受注も検討している。

昨年からは若い職人に茅葺の技術も習得させている。

「使命感、ですね。伝統は残していかないといけない。そのために、いろんな技術を磨いていかなくてはいけない。30代になったら、自分たちの職人としての将来像を考えてほしい。社会から、磐石の評価をされる職人集団に育てていきたい」。後進に向ける水沢社長のまなざしは厳しく、そして温かい。

会員にきく 「たくみの仕事」Vol.8

消防設備で建物を守る

サンコー特機株式会社 代表取締役 ^{みやしたつねお} 宮下恒夫さん（長野市南長池）

profile●昭和14（1939）年12月9日生まれ、63歳。社団法人長野県消防設備協会副会長、県警報設備協会会長、県建築物防災協会長野支部の副支部長などを務める。長野市田中に妻と二人暮らし。

名匠の技術の結晶ともいえる社寺建築を、影で支える職人がいる。消防設備の販売・施工で豊富な実績をもつサンコー特機の創業者・宮下恒夫さんがその一人。昭和49（1974）年に独立して現在の会社を設立。県内では消防設備工事の先導的な役割を果たしてきた。

「消防設備は、消防法ができた昭和37（1962）年以降に始まった歴史が浅い業界で、”名匠”と呼ばれるような伝統的な仕事ではありません」と謙虚な姿勢ながらも、これまでに取り組んだ工事は、県内の国宝・重要文化財だけで20近くを数える。避雷針を含め、文化財の防災システムは、すべてを引き受けてきた。

社寺の場合、軒の桁（けた）など外廻りや床下に、口径2mmの銅製の空気を設置する。建物の随所に張られた管は、一本の延長が100m以内の場所に設置する分布型感知器に集約される。管のなかの空気温が1分間に20～30度C上昇するのを感知すると、消火設備が作動する仕組みだ。空気管は建物の部材の色に合わせてあり、建物の美観を損なわないような取り付け方に気を配る。

「建物内部からの出火とともに怖いのは、周辺部からの類焼。落葉樹の葉や杉の木の枯れ葉、山火事などへの警戒が必要です」。「万が一への万全」を期す設備。気を抜くことは許されない。

スプリンクラー設備は、類焼を防ぐために水の幕を作る「ドレンチャー」と呼ばれる放水装置を屋根の棟ぐしに設置したり、地面から建物に水を吹き上げる消火システムを整備するなど、建物の構造や立地条件に合った方法が求められる。

屋根の上、天井裏、軒下…、仕事を通し「匠の技を間近で見られる楽しみがある」と宮下社長。

しかし、国内のほとんどの文化財は、防災工事を終えている。宮下社長は「若い人には残念ながら、新しい工事は少ないが、メンテナンスの仕事を通して、今ではほとんど使われない空気管の布設技術なども教えていかなくてはならない」と語る。

「わたしたちの仕事は、火災の早期発見、初期消火により、人々の生命と財産を守ること。建物の種類に関係なく、仕事の目的は同じ。つねに施主の立場になって仕事に取り組んできた」と振り返る。美術館の消火設備が、フロン系ガスや炭酸ガスから、窒素系ガスによる高速消火が主流になるなど、技術進歩や法規制の変遷への対応が求められる業界である。



宮下恒夫さん。手にしているのは銅製の空気管



若手社員と図面を確認する（本社にて）

昭和61（1986）年に県消防設備協会の理事に就任。以来、消防用設備を点検した際に、点検済票を貼る「点検済表示制度」の普及に力を注ぎ、平成8（1996）年の全国統一基準に大きく貢献した。点検済表示を「100%に少しでも近づけなくてはならない。現状で、県内の表示率は半分程度。建物所有者の理解を得て、すべての建物が、消防設備を点検するようになれば」と期待する。

現在では、同協会の副会長を務め、協会員の指導育成も行う。業界リーダーとしての役割は大きい。

定例研修会●Report

(平成14年12月～平成15年4月)

【空調設備について】



渡辺公一氏

平成14年12月18日
 講師：松田産業株式会社 高木茂実氏（賛助会員）
 (株)日立空調システム 渡辺公一氏
 資料情報提供：株式会社日立製作所
 参加者：20名

各種空調システムと環境問題

空調（空気調和）とは、特定の場所の空気を最も適当な状態に調整することをいい、人間の休養などに適した「保健空調」と工業製品等に適した「産業空調」の2つに大別できる。調整に必要なプロセスは①空気の冷却または加熱（温度）②空気の除湿または加湿（湿度）③気流の調整④空気の清浄一となる。圧縮機、熱交換機、送風機などを一つの箱に組み込んだものを「パッケージ」と呼ぶ。――渡辺氏は、各種方式の空調システムについて解説。

続いて、1970年代後半から国際的な関心が高まった、「オゾン問題に適應した冷媒」について、オゾン層を破壊する規制冷媒から代替冷媒に転換した製品化を進めている現状を語った。

【忘年会】

平成14年12月18日、三井ガーデンホテル長野「四川賓館」にて、参加者35名

【新年会】

平成15年1月30日、三井ガーデンホテル長野「四川賓館」にて、参加者32名



ひきや【曳家工事について】



須坂市の藪蔵曳家工事について語る金田氏

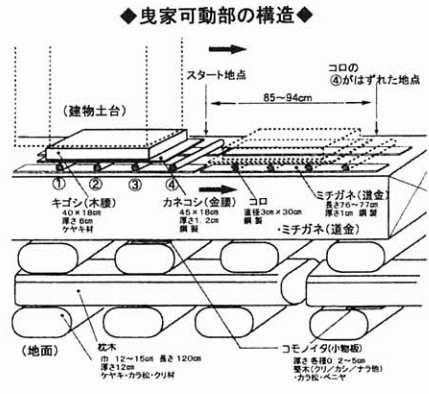
平成15年2月28日
 講師：有限会社金田工業所 代表 金田勝良氏（須坂市）
 参加者：25名

“てこ”と“ころ”をつかって。つくり手の思い後世に

曳屋は「家を動かす」職人。土台から切り離れた建物を、木で造った道（道木・みちぎ）に乗せ、ウィンチを手動で回して移動する。建物とみちぎの間には、“ころ”と呼ばれる直径3cm×長さ30cmの鉄の棒を入れる（図）。これは“てこの原理”を応用したもので、そのルーツは、古代エジプトでピラミッド建設に使われた巨石移動の技術という。

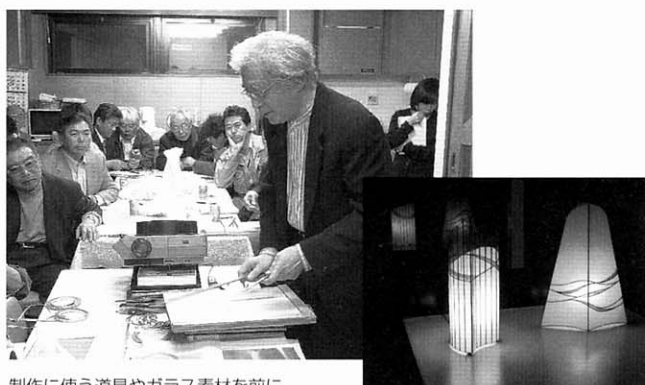
金田さんは、金田工業所の3代目。30年の経験をもつベテランの曳屋職人。平成12年には、地元須坂市に残る3階建て、重さ130tの藪蔵を180m動かす曳家を成功させた。現在は、「ふれあい館まゆぐら」として修復され、「蔵のまち須坂」の姿を伝えている。

家を動かすという派手な作業の実態は、地道な作業の連続。子息の晃典さんが後継者として、日々意欲的に曳家の技を学んでおり、頼もしい。金田さんは「江戸、明治から伝わる建物には手を抜かず丁寧に作業されているものが多い。つくり手の思いを後世に伝えていきたい」と話した。



曳家可動部の構造

【スタンドグラスの魅力】



制作に使う道具やガラス素材を前に、
工程やデザインについて語る東出氏。

当日紹介されたスタンドグラスの照明作品

平成15年3月26日

講師：スタンドグラス作家 東出 輝彦氏（南安曇郡穂高町）

参加者30名

納得いくまでデザインを構想

「スタンドグラス制作の基本はデザイン。建物や空間との調和を一番に考えている。納期が半年先のものであれば、3か月はデザインに費やし、モチーフとなるものがあればスケッチを重ねて、納得いくデザインが決まるまでは、制作に入らない。それが私の信条です」。人間は普段、反射光で物を見ているが、スタンドグラスは光を透かして見る。光の演出により、新たな建築空間を創り出すことができる。

東出氏は「作品では、ガラスの模様を水面や雲、夕焼けなどの表現に生かし、柔らかさや温かみを出したい。光を感じられる、ガラスにしかできない魅力的な作品にしたい。設計に関わる人や施主にも、スタンドグラスの魅力をもっと知ってもらいたい」と語った。

【陶芸体験】



大きいもので1か月ほど乾燥させてガス釜焼きへ。力作の予感…



満開の八重桜や新緑の中で。参加したみなさん

平成15年4月26日

講師：雪しろ窯主宰 村越 久子氏（小県郡武石村）

参加者23名

やきものの世界に遊ぶ一日

村越氏のご厚意による昼食に舌鼓を打ったあと、参加者はそれぞれ、茶碗や皿をはじめ、大振りな灰皿やランプシェードなど、思い思いの作品に取りくんだ。大半は二回目以上の経験者であり、アイデアのスケッチを持参したり、大皿など難易度の高い作品に挑む方など、前年に増してバラエティーに富む作品が、数多くみられた。

焼き上がった作品は6月の総会で展示し、優秀作品には賞が贈られる。

●新会員紹介（平成15年6月現在）〈職種・氏名・会社名・住所・TEL・敬称略〉

【個人会員】○土木造園測量工事★常田亀久夫★(株)菅平土建★小県郡真田町大字長1223-1282★0268-74-2266

○左官業★飯泉勝司★(有)エスピー飯泉★須坂市亀倉町105-4★026-245-5518

○造園業★荒井和夫★(株)荒井造園★埴科郡坂城町大字坂城236-1★0268-82-3938

【新賛助会員】○鋼製外装工業★藤澤浩志★(株)シンテック北信越支店★須坂市幸高97フジサワビル3F★026-242-7331

○石工★犬飼栄治★(株)シナノ大理石★長野市川合新田1-126-7★026-221-6200

○集成材加工業★坂田典之★(株)齊藤木材工業★小県郡長門町古町4294★0268-68-3811

○家具販売★飯田富夫★(株)イトーキ長野支店★長野市中御所1-24-4裾花第2ビル2F★026-228-3288

●会員名変更（前→新）〈敬称略〉

【個人会員】○鉄筋業★海野竹雄→海野政也★(有)海野鉄筋工業所

【新会員】○鉄鋼業★栗原清澄→北野喜久★(株)角藤

○内装業★原誠→太田光雄★(株)岩野商会

○型枠業★田澤良夫→小山巧★(株)田澤工務店

○事務局★古川稚佳子→谷畑稚佳子★(株)宮本忠長建築設計事務所

○木製建具業★岩井英一→岩井秀樹★(株)岩井工業

○タイル設備製造販売★勝間康博→山崎博之★(株)INAX長野営業所

○事務局★堀内久美子→中澤幸介★(株)新建新聞社

●平成15年度総会開催のお知らせ

○日時/平成15年6月25日（水）

受付開始：14時30分 開会：15時

東秀紀氏（都市研究家・作家）の講演会：16時～ 演題「谷口吉郎と長野の匠との出会い」

懇親会：17時30分～

○会場/メルパルクNAGANO3F（長野駅より徒歩2分）

※ 親睦ゴルフ大会は、翌26日に開催します（信濃ゴルフ）。